

国土交通省  
グリーンインフラ懇談会における勉強会への話題提供

2025.6.6(金)10:00-12:00

ひと・まち・自然が共生する  
環境共生・地域共生のまち「世田谷」の実現を目指して

(一財)世田谷トラストまちづくりの  
中間支援組織としての取組

一般財団法人 世田谷トラストまちづくり



# (一財)世田谷トラストまちづくりについて

世田谷区における外郭団体（区所管:都市整備政策部）

- (財)世田谷区都市整備公社 設立(1980年)  
※ 公社内に1992年まちづくりセンターができる。
- (財)せたがやトラスト協会 設立(1989年)

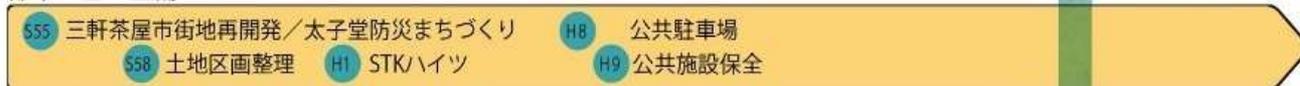
-2006年4月1日に統合-

それぞれが有していたみどりや住まい等のまちづくりの専門性を統合し、今までに蓄積されたみどり保全のトラスト運動や住民のまちづくり活動の支援を継承発展させ、区民主体による良好な環境の形成及び参加・連携・協働のまちづくりを推進し支援するために設立。

# ■ (一財)世田谷トラストまちづくりの変遷 | 年表

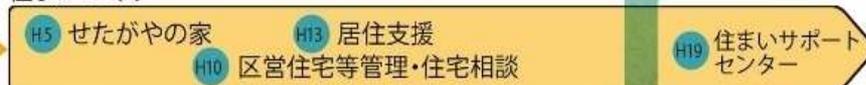
1975年(S50年) | 1980年(S55年) | 1985年(S60年) | 1990年(H2年) | 1995年(H7年) | 2000年(H12年) | 2005年(H17年) | 2006年(H18年)

## 都市の基盤整備



公共施設等  
保全・運営

## 住まいづくり



住まいづくり

## まちづくりセンター



## 地域共生



地域力を育む  
まちづくり

## 住民参加の事業支援



● ふたつの財団が統合

2006年

S55 (財)世田谷区都市整備公社設立

1989年



H18

一般財団法人

世田谷 トラストまちづくり

平成18年4月設立

自治権拡充

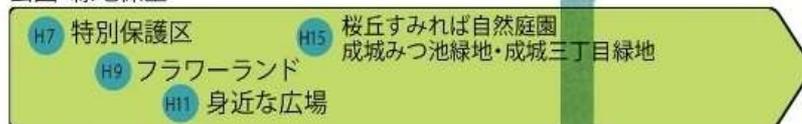


## 環境調査・トラスト運動普及・啓発



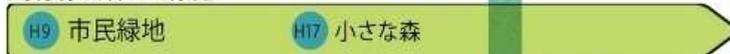
参加の輪を広げる  
普及・啓発

## 公園・緑地保全



環境保全を図る  
トラスト運動

## 民有緑地保全・緑化



S = 昭和

H = 平成

# ■ 財団が掲げる3つの目標

## ひと + まち + 自然

世田谷トラストまちづくりは、「ひと・まち・自然 が共生する世田谷」の実現をすすめています。

目標

自然環境や歴史的・文化的環境を保全した  
美しい風景のあるまちの実現

目標

安全に安心して生き活きと  
住み続けられる共生のまちの創出

目標

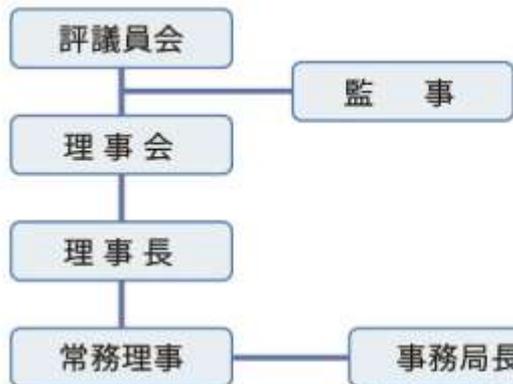
居住環境を魅力的に守り育む活動と  
活力あるコミュニティの形成



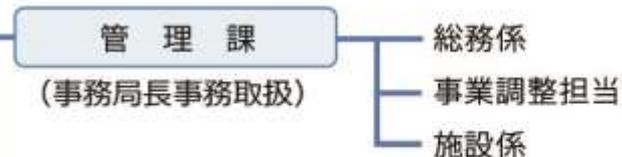
# 組織図

- R6年度トラみど課&地まち課 予算規模:
  - ・ 事業費 1.5億円
  - ・ 受託事業 6千万円

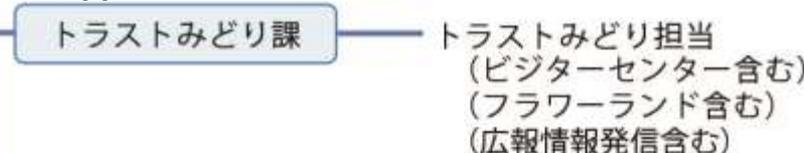
60名



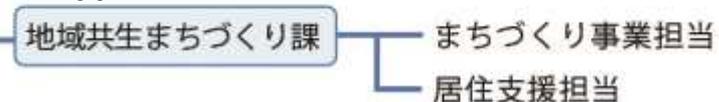
14名



28名



17名



- ・ 空き家等地域貢献活用支援
- ・ 地域共生のいえ支援づくり支援
- ・ 公益信託 世田谷まちづくりファンド ほか

## ✓ 主な収入

- ・ 世田谷区からの補助金
- ・ 三軒茶屋キャロットタワー地下駐車場の管理運営(約2億円)
- ・ 財団所有の不動産(STKハイツ)を賃貸
- ・ 世田谷区からの委託事業 ほか

区民主体による良好な環境の形成及び参加・連携・協働のまちづくりを推進し支援するための主な事業

# ■ トラストみどり課の事業とグリーンインフラとの関係

民有地 ← 場・空間 → 公有地

民有地のみどり 保全

「市民緑地」「小さな森」

広義GI

自然環境保全再生

調査、希少生物保全、公園・  
緑地の保全再生

民有地の緑化 推進

「3軒ガーデニング」

農の魅力アップ

「農業公園」「フラワーランド」

狭義GI 世田谷GI推進

「世田谷GI学校」「雨庭相談窓口」  
「地域リーダーの育成」

歴史的・文化的環境の保全活用

近代建築が付随する公園の管理運営ほか

ボランティア活動(21団体) / 参加・協働促進、情報発信

企業・他団体等との連携・協力 / 企業受入、講師派遣、関連団体との情報連絡会ほか

トラまち会員(2700人) & 寄付者の拡大

環境学習・人材育成

普及啓発、総合学習支援、  
「トラストまちづくり大学」ほか

環境学習拠点

ビジターセンターの運営

広報・情報発信

情報誌「ひとまち自然」ほか紙媒  
体の発行、HP・SNS、メルマガ発  
信ほか

せたがやの住みよい環境づくりにつながる  
区民主体のまちづくり活動に助成をします

# 第31回 公益信託 世田谷まちづくり ファンド 助成事業



## 2023年度の助成部門

### 〔はじめの一步部門〕

これからまちづくりの第一歩を  
踏み出そうとしている  
グループの活動に対して助成。  
【助成額:一律5万円】

### 〔まちづくり活動部門〕

住みよい環境づくりをめざす住民グループの  
様々なまちづくり活動に対して助成。  
【助成額:5~50万円】

アンダー  
〔U23チャレンジ部門〕(春・秋 2回)  
23歳以下の方が主体のみなさんが、世田谷の  
まちでやってみたいチャレンジに対して助成。  
【助成額:1~10万円】

### 〔つながりラボ部門〕

社会状況の変化の中で、他者と協働し、暮らし  
の課題解決や新たな価値創造への実験的な  
活動に対して助成。すでに場(つながりラボ)  
をもっている活動が対象。  
【助成:一律50万円】

## 応募事前相談

要予約 zoom  
参加可

2023年 2月17日(金)~3月31日(金)  
一般財団法人 世田谷トラストまちづくり  
☎03-6379-1621  
メールでのお問合せは裏面を参照ください。

## 応募受付

郵送必着

2023年 4月3日(月)~4月17日(月)  
●U23チャレンジ部門・春のみ、5月8日(月)まで

## お問合せ

三井住友信託銀行  
個人資産受託業務部 公益信託グループ  
☎03-5232-8910

応募締め切り  
4/17(月)  
〔U23チャレンジ部門・春は  
5月8日(月)〕



## ■ 市民まちづくり活動への カネとヒトの支援

### ● 1990年代: 住民主体のまちづくり支援 「行政主導」から「市民主体型」へ

#### < 人的・専門的支援 >

- ・(財)せたがやトラスト協会(1989年)
- ・(財)世田谷区都市整備公社内にまちづくりセンター  
が創設(1992年)

#### < 資金的支援 > (1992年)

- ・公益信託 世田谷まちづくりファンド  
「はじめの一步部門(5万円)」  
「まちづくり活動部門(最大50万円)」ほか  
※「まちを元気にする拠点づくり部門(500万円)」  
〔一財〕民間都市開発推進機構 拠出額5,000万円  
<2006-2013年>

## 31年間で

- 助成団体: 454団体(延899団体)
- 助成総額: 2億5千万円の支援
- 2025年に信託財産終了
- 2025年度 財団独自のファンド設立  
『世田谷トラストまちづくり活動助成事業』

# ■ 世田谷まちづくりファンド助成団体の活動テーマ

## 活動テーマ別の分類

- ・ 区民自身の手による居住環境づくりの支援
- ・ 広範・多岐にわたる活動の育み



環境保全・創出、  
歴史系 43%

■財団では、区内**30**か所以上の  
緑地・公園等を維持管理している

⇒ その約半数に区民ボランティアが関わっている



◀ フラワーランド友の会（瀬田農業公園）



里山づくりコア会議(成城三丁目緑地) ▶

# ■ 2020/ 「自分でもできる雨庭」づくりの取り組みがスタート

**1. 雨庭とは何か？** 屋根や地面に降った雨水を集めて一時的に貯留し、ゆっくりと地面へ浸透させる庭のこと。  
近年、増加する集中豪雨により雨水が一気に下水道や河川に流れ込むリスクの軽減が期待できる。

## 2. 「自分でもできる雨庭」とは？

世田谷区は東京都23区の中でも戸建て住宅が多い都市。そのため、財団では、区民が個人宅でも実践しやすい「自分でもできる雨庭」づくりをおススメしている。

「自分でもできる雨庭」とは、次の(1)～(3)のことを指す。

- ① ホームセンターなどで気軽に購入できる材料を使い、手づくりできる庭
- ② ガーデニングの延長線上で、植物を育てる楽しみを享受できる庭
- ③ 様々な植物を植えることで生きもののすみかとなる環境を提供できる庭

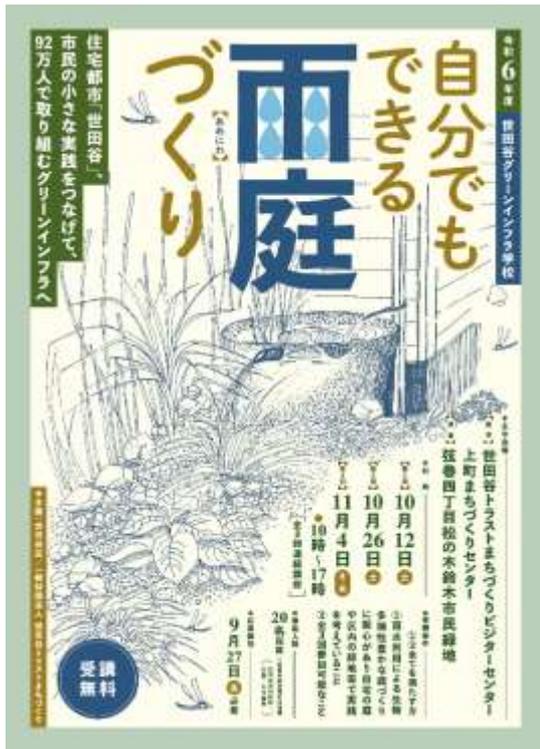
## 3. 雨庭がつながり、地域がつながる

個人宅での雨庭づくりの活動が、ご近所に広がることで、地域のコミュニティづくりの一助へつながっていくことを期待。



# 2021-/ 世田谷グリーンインフラ学校 【人材育成】

- ✓ 全3回で、自然環境が持つ多様な機能を賢く利用するグリーンインフラや雨水利用等を体系的に学び、自分でも実践できる「雨庭」を演習フィールドで手づくり施工する学校。
- ✓ グループワークやディスカッションを通じた、主体的な学びの場。雨庭づくりを通じて、「グリーンインフラの魅力や意義を地域の中で率先して広めていく」リーダーを育成。
- ✓ 2021年度から、世田谷区から当財団が企画・運営の委託を受け、実施。
- ✓ 2024年度で4年目を迎え、区内外から171名の応募があり、81名が卒業。



- 日時：2024年10月12日～11月4日(全3回)
- 会場及び演習フィールド：弦巻四丁目松の木鈴木市民緑地
- 応募者数：34名／参加者数：16名

# 雨庭づくり相談の試行 2024年度～

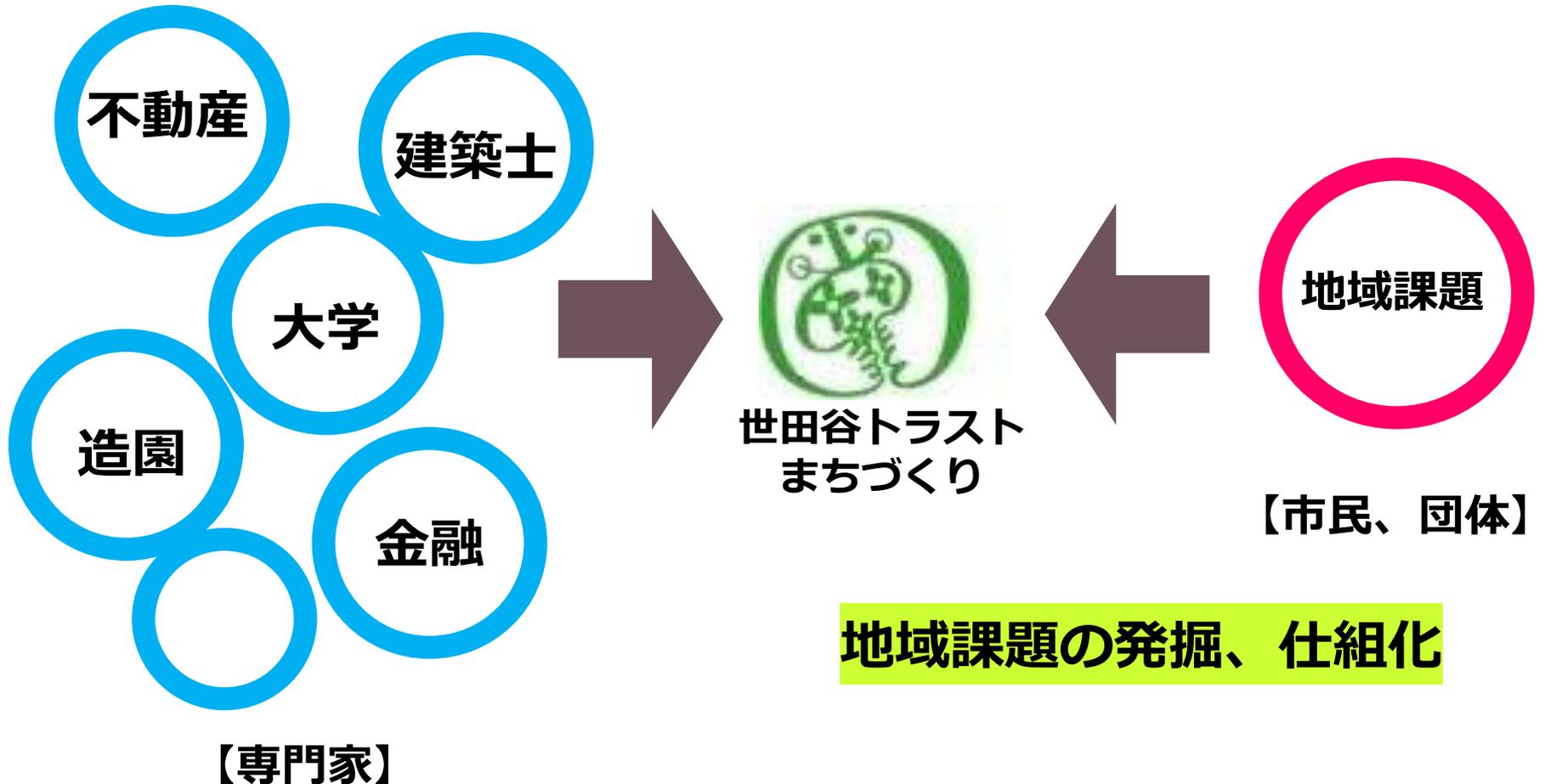
GI学校卒業生 2件の相談 対応中

仕組み化に向けて、

- ・ 相談体制やフローの検討
- ・ 専門家派遣の在り方を検討

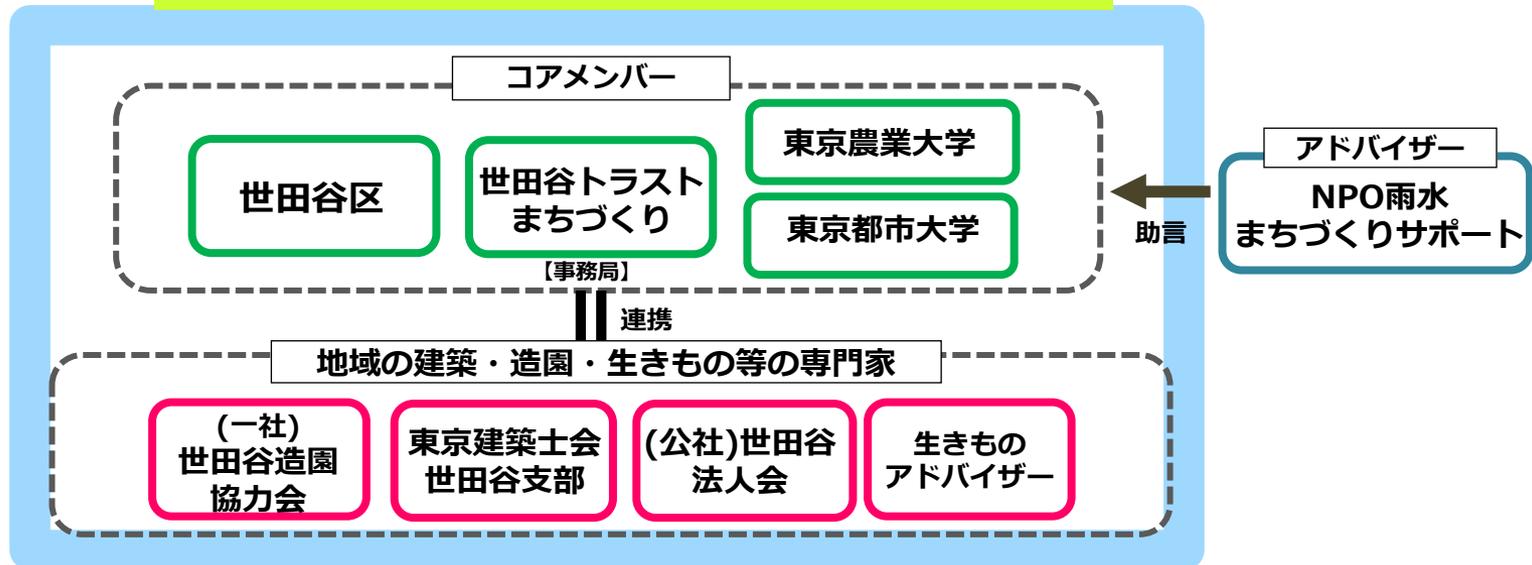
■ 世田谷トラストまちづくりの役割のひとつ…

市民と専門家をつなぐ、結ぶ、束ねる役割



# 「自分でもできる雨庭」を普及していくためには、市民だけでなく住宅やその庭を設計・施工する造園・建築の専門家の関わりも重要

## 個人宅などでも実践しやすい雨庭などモデルケースの試行



## 個人宅などでの雨庭などの実践



推進体制図イメージ (2020年度 当時)

■ 2024年度/

# 世田谷区内の造園・建築業界団体様 向け 雨庭づくり研修 第1回開催 (2025.3.24実施)

財団  
自主

- **目的:** 「個人宅等でできる雨庭」の普及に向け、雨庭を施工する専門家育成の一助として研修を行う。意見交換を行うことで雨庭づくりを推進していくための課題等も整理する。世田谷区の関連する助成事業の周知にも役立てる。
- **場所:** 世田谷トラストまちづくりビジターセンター
- **主催:** 一般財団法人 世田谷トラストまちづくり



# 2023-/ 『#奥沢コミュニティ雨庭』で 宿根草を活かし生きものを呼ぶガーデニングのコツを学びませんか

➡きっかけ／2022年度 世田谷グリーンインフラ学校で参加者と手づくり施工した公園内の3か所の雨庭の管理状態が良くない。 ➡ねらい／雨庭づくりの地域リーダー育成を目指した雨庭と宿根草を見守る地域コミュニティをつくる



## ■ 今後の定例活動 2025年度

7月 11日(金)午前 9時30分～ 午前11時30分

8月 8日(金) 午前 9時30分～ 午前11時30分

9月12日(金) 午前 9時30分～ 午前11時30分

\*毎月第2金曜日に実施



#奥沢コミュニティ雨庭

# 2023/ 世田谷トラストまちづくりがオススメする 「自分でもできる雨庭」の手引き



内容／約3.3㎡(1坪)の雨庭づくりのために必要な手順と使用する材料、道具、ちょっとしたコツがわかるセルフガイド。個人宅や公園・緑地で手づくりでつくった「自分でもできる雨庭」の事例紹介



制作年：2024年3月  
発行部数：4,000部+増刷4,000部  
配布場所(当時)：世田谷トラストまちづくり梅ヶ丘事務所およびビジターセンター、世田谷区内 まちづくりセンター、図書館、出張所、児童館ほか

## やってみよう! 「自分でもできる雨庭」 つくり方のキホン

約3.3㎡(1坪)の雨庭づくりのために  
必要な手順と使用する材料、道具、  
ちょっとしたコツをお伝えします

### ① 深さ30cmの穴を掘る

本職員(草子、柄スコップ、巻尺)  
雨庭をつくる場所を決めたら、水が溜まり込み易い  
湿気性の喜ぶな植物が育ちやすい。柄ス  
コップで深さ30cm程度の穴を掘ります。穴の縁  
の地形や地質、土の利便性によって穴の深さを  
おおよそ20cm程度です。掘るときは、大きな石や  
腐葉土などが落ちてきたら、より深く掘り直します。



掘った穴に浸透貯留材を深さ15~20cm投入  
※時期：浸透貯留材(赤い)・腐葉土(黒い)は、10月〜3月まで投入可能

掘った穴に浸透貯留材を深さ15~20cm投入  
腐葉土、赤い浸透貯留材を深さ15~20cm投入  
腐葉土、赤い浸透貯留材を深さ15~20cm投入  
腐葉土、赤い浸透貯留材を深さ15~20cm投入

※時期：浸透貯留材(赤い)・腐葉土(黒い)は、10月〜3月まで投入可能

### 雨庭のタイプ

雨庭には大きく分けて2つのタイプがあります。  
1. 雨水を貯留して利用するタイプ  
2. 雨水を浸透させるタイプ  
ここでは、2つ目のタイプをご紹介します。

### ⑤ 仕上げ方は2つ 枯山水にする/土で覆い植物を配置

仕上げ方は2つあります。1つは枯山水にする方法、もう1つは土で覆い植物を配置する方法です。枯山水にする場合は、石や砂を敷き、植物を配置します。土で覆い植物を配置する場合は、土を敷き、植物を配置します。



掘った穴に浸透貯留材を深さ15~20cm投入  
腐葉土、赤い浸透貯留材を深さ15~20cm投入  
腐葉土、赤い浸透貯留材を深さ15~20cm投入  
腐葉土、赤い浸透貯留材を深さ15~20cm投入

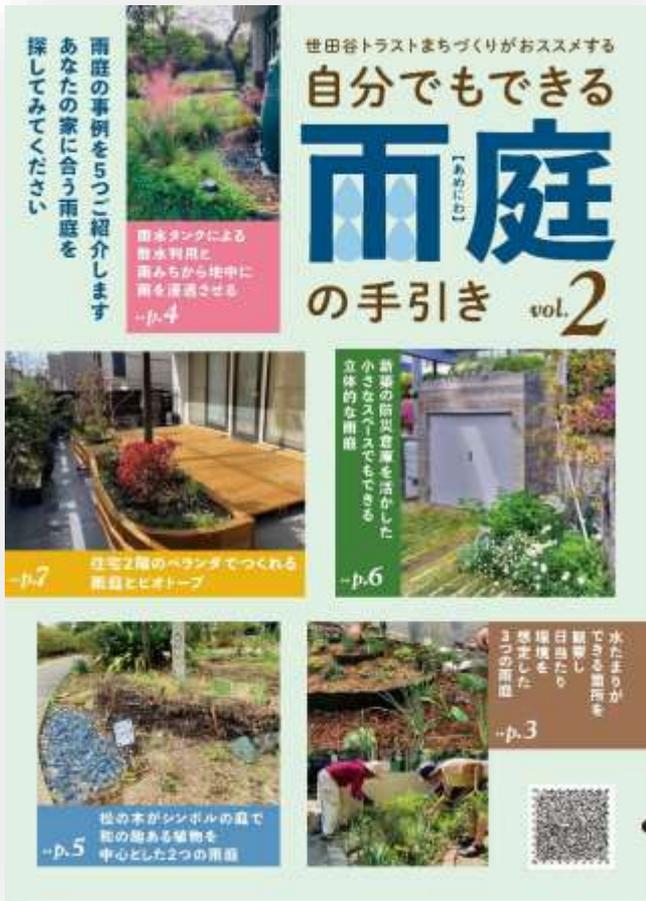
財団ホームページからPDF  
ダウンロードもできます➡



# 2024年度~/ 世田谷トラストまちづくりがオススメする 「自分でもできる雨庭」の手引き vol.2



(2025.3月末発行)



内容／個人宅等で実際に雨庭をつくってみたいと思った方が参考になるような雨庭の5つの事例をまとめています。

- 制作年: 2025年3月 (予定)
- 発行部数: 5,000部 + 世田谷トラストまちづくりHPにてPDF公開
- 配布場所(当時): 世田谷トラストまちづくり梅ヶ丘事務所およびビクターセンター、世田谷区内 まちづくりセンター、図書館、出張所、児童館ほか



財団ホームページからPDFダウンロードもできます➡



## ■ 政策要望／項目②多様な効果の見える化(定量評価の必要性)

- 既存の環境保全、創出に関わるボランティア、市民活動団体にとって、グリーンインフラは「ピンとこない」「私たちにはあまり関係ない」という意識が現状。
- GIの新たな視点による評価軸によって、既存の環境保全、創出活動が再評価され、その結果、団体への共感や社会的信用が高まり、緑地等の維持管理活動に充てられる寄付等の資金調達の一助となる、担い手や保全・創出する緑地が増えるなどにつながるのであれば手法開発の必要性を感じる。※ 中間支援組織としての財団も同様。
- 緑地の維持管理、GIを続けていくにはお金がかかる。市民が担うからと言って安くあがるわけではない。必要なところに必要なお金が流れる仕組みになれば。
- 定量評価の項目は、目的や視点によって多様な評価となるため、様々な主体の意見を収集した上でつくっていただきたい。特に、GIを維持管理する担い手にとってわかりやすい指標の開発をお願いしたい。

## ■ 政策要望／項目③官民の取組を促進する環境整備

- 課題①財団の人手不足…維持管理拠点多く、新たな管理手法などの学びの機会が得られない、ボランティアが収集したデータ・記録を管理方針に活用しきれないなど、専門的知識の更新とコーディネート人材の育成が課題。
- 課題②ボランティア不足…環境保全が盛り上がった時代のボランティアが高齢化。従来の活動のほか若い世代が暮らしの一環、ライフスタイルとして、取り組めるような工夫が必要。
- 課題に係る支援～政策要望…GIに係る中間支援組織の課題感やニーズを把握し、定量評価手法や中間支援組織の支援につながるような意見交換の場の設定(国主催)。地域のニーズに対応したきめ細やかな支援につながる基礎自治体を通さない柔軟な資金の流れ。
- 例えば、まちづくりファンド「まちを元気にする拠点づくり部門」のように(一財)民間都市開発推進機構を通じたGIに係る市民活動に対しての柔軟な助成金の仕組みなど。